

平成19年度第4回大垣市まちづくり市民活動育成支援推進委員会 議事録

平成20年1月31日、平成19年度第4回大垣市まちづくり市民活動育成支援推進委員会を大垣市役所2階第1会議室において開いた。その次第は次のとおりである。

付議事件

- (1) 交流会のまとめについて
- (2) 市民活動団体の登録について
- (3) まちづくり市民活動支援センターの利用状況について
- (4) おおがきかがやきサイトの登録状況について
- (5) 平成20年度市民活動助成について

委員の出欠

出席委員

委員	大西ひさ子君	委員	阪本智子君
委員	佐藤真紀君	委員	鈴木誠君
委員	高岡ミネ君	委員	高屋心子君
委員	服部昭彦君	委員	山岡泰利君

欠席委員

委員	加藤有子君	委員	田中禎一君
----	-------	----	-------

事務局出席者

かがやきライフ推進部長	宇佐見昭典君	市民活動推進課長	西村泰男君
事務局担当	田中裕君	事務局担当	神田孝行君

午後3時00分 開会

西村市民活動推進課長

ただ今から「大垣市まちづくり市民活動育成支援推進委員会」を開催させていただきます。はじめに、宇佐見かがやきライフ推進部長よりごあいさつ申し上げます。

宇佐見かがやきライフ推進部長

ご苦労様でございます。よろしくお願いたします。

本市の市民活動団体数は95となり、様々な分野で活発に取り組んでおられます。昨年開催した「かがやきライフタウン大垣2007」では、70を超える団体の皆さんに参加・協力をいただいたおかげで、2日間で約9千人の方々にご来場いただきました。

こうした市民活動団体との協働事業は年々増えております。本日の議題である交流会

のまとめにもありますが、団体の皆さんのニーズにできる限り応えながら、積極的に協働を進めてまいりたいと思っておりますので、委員の皆さんからもご意見をお願いいたします。

とりわけ来年度は、市政90周年を迎えます。行政主導ではなく、市民の皆さんから事業を募集するなど、市民の皆さんと一緒に祝いしたいと思っております。委員の皆さんにも、様々な形でご支援いただければと思っております。

簡単ではありますが、ご挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

西村市民活動推進課長

議題に入りたいと思いますが、鈴木委員長さんが少し遅れるとの連絡を受けておりますので、これよりの進行は委員会運営規則第3条第3項の規定により、高屋副委員長さんをお願いしたいと思います。

高屋副委員長

それでは、鈴木委員長さんがお越しになるまで議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

議事に入ります前に、本日の会議につきましては、個人情報など非公開とする案件に該当するような事案がないことから、会議は公開とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(はいと言う者あり)

高屋副委員長

なお、本日の傍聴者は1名でございます。

次に、本日の議事録署名者ですが、高岡委員さんをお願いしたいと思います。議事録を作成次第、事務局がお持ちしますので、よろしくお願いたします。

それでは、議題1の交流会のまとめについて、事務局から説明をお願いします。

(田中事務局担当が資料No.1に沿って説明)

高屋副委員長

ただ今、事務局から説明を受けましたが、ご意見等がありましたらお願いします。

佐藤委員

1月17日のNHKのクローズアップ現代で、地方のNPO基金を取り上げており、郡上で行われているマイクロ水力発電や古民家再生などの市民活動に助成が行われています。税金のみではなく、ファンドを検討する必要もあると思います。

田中事務局担当

岐阜県がNPO法人のみを対象にした「NPOはつらつファンド」を設けていますが、県内では市民活動の基金を設けている市はないのが現状で、税金のみで助成を行っています。現在の経済状況では難しいかも知れませんが、先進地などの調査研究は進めたいと思っています。

山岡委員

青少年育成財団の状況ですが、基金残高が1億8千万円ありますが、低金利のため運用益はわずかです。また、企業からの寄付も毎年150万円ほどとなっており、民間からの寄付も厳しいのが現状です。

田中事務局担当

そうした状況は十分承知しています。

服部委員

交流会についてですが、登録団体の割には参加団体が少ないので、開催のやり方を検討する必要があると思います。また、欠席が多いなら、事前にアンケートを取れば意見が多く集まるのではないのでしょうか。

田中事務局担当

2年前の交流会ではアンケートを取りましたが、昨年はいませんでした。例年欠席の団体が多いので、来年度はアンケートを実施したいと思います。

高屋副委員長

交流会での意見に対する回答は、団体に返しているのでしょうか。

田中事務局担当

出席団体に回答を郵送しています。また、市ホームページにも議事録とともに回答を掲載しています。

佐藤委員

岐阜市では、助成を受けた団体が半年に一度、有識者などに対する報告を行っています。継続の可否などを見極めるには、必要ではないのでしょうか。

田中事務局担当

本市では、市民活動助成の対象団体には中間報告を書面で、また翌年4月には公開報告会での発表をお願いしています。1団体3回まで助成が可能ですので、続けて申請する団体の場合は、成果報告が翌年度の助成の審査に影響しています。

服部委員

これまで年間に3～4回程度委員会を開き、助成の審査や交流会などの定例となった内容を行ってきましたが、助成制度やファンド、協働の仕組みづくりなどの検討を推進

委員会で行うのであれば、委員会の開催回数を増やさないと対応できないのではないのでしょうか。

田中事務局

来年度は委員会を5回開催させていただくかも知れません。

高屋副委員長

それでは、次ぎの議題となる報告事項について事務局から説明をお願いします。

(田中事務局担当が資料No.2～5に沿って説明)

(鈴木委員長着席)

鈴木委員長

遅れてまいりまして大変申し訳ありません。これからの議事は、私がとらせていただきます。

ただ今、事務局から説明を受けましたが、ご意見等がありましたらお願いします。

高屋副委員長

先ほども社会福祉協議会との連携を図りたいとの説明がありましたが、社協の登録団体の多くは、市の登録、支援センターの登録、かがやきサイトの登録の違いを理解していません。一本化は難しいかも知れませんが、よりわかりやすく、共通化したものを検討できないのでしょうか。

また、かがやきサイトは非常に利用価値の高いツールだと思いますので、支援センターもサポートしながら広げていただければと思います。

田中事務局担当

登録については、整理を考えたいと思います。

また、かがやきサイトは、写真やチラシを貼り付けることができ、事業PRや活動報告にも使えるのですが、そこまで活用している団体は少ないのが現状です。インターネットを使えない団体も含め、支援センターのサポートやPRが今後も重要だと思っています。

佐藤委員

登録が複雑になっているようですが、書類だけでも1ヶ所で受け取れるようにならないのでしょうか。

田中事務局担当

支援センターで全ての書類が手に入るようになっています。

なお、社協の登録用紙に、かがやきサイトの登録希望の有無を記入できる項目を盛り込んでいただけるよう依頼をしましたが、まだ実現していません。ちなみに、生涯学習

団体の登録時にかがやきサイトの登録希望をお尋ねし、10団体ほど登録に結びつきましたので、今後も社協と連携をとりながら、積極的に声かけを行っていきたいと思っています。ただ、ボランティアは社協、まちづくりは支援センターという住み分けが根強くあるのが現状です。

高屋副委員長

社協に様々な依頼が入り、それを社協のボランティアセンターが各団体に振り分け、活動につながるわけで、それ以上を望んでいない団体もあります。ただ、事業のPRや会員の募集など外に対する情報発信を必要としている団体もあります。

高岡委員

息子が役をやっています、子どもの健全育成を目指すBBS会でも言えますが、県内でも大垣は活動が活発なようです。

鈴木委員長

かがやきサイトは、事業や団体のPR、会員やボランティアの募集、団体間のネットワークなどにも有効ですので、市、社協、支援センターの3者で連携し、上手に活用すべきだと思います。

山岡委員

青少年育成財団も上限20万円の助成を行っているが、過去に市民活動で助成を行った団体もあります。行政の窓口を一本化する必要があるのではないのでしょうか。

鈴木委員長

課題と方針にもありますが、施行から5年を迎えた市民活動育成支援条例の改正を視野に入れながら、協働のあり方やその指針を当委員会で議論する必要があると思っています。

大西委員

社協との連携、もしくは窓口の一本化をお願いしたいと思います。

鈴木委員長

岐阜経済大学も大垣女子短期大学もボランティアの担当窓口を設けたり、単位として認定する動きがありますので、そうした学生ボランティアとの連携を図っていただき、若者の人材育成をお願いできればと思います。

田中事務局担当

先日、商業高校からの依頼で生徒さん2名のインターンシップを支援センターでお受けし、2日間お手伝いいただきましたが、今後も学生さんとの連携は深めていきたいと思っています。

鈴木委員長

大垣商業高校は街中にサテライトを設けることも検討しておられるようですが、教育事業としてボランティアを進めておられます。

高岡委員

BBSは、登校拒否や交通遺児などの子どもを支援する活動を行っています。昨年までは岐阜経済大学の学生さんにもお手伝いいただきましたが、今年はお見えになりませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

服部委員

「市民活動育成支援」から「市民協働」にステップアップする時期だと思います。名称も含め、中身を来年度委員会で検討すべではないでしょうか。

鈴木委員長

もう一つ、大垣の自治会活動は全国的にも評価されるほど活発で、組織化されているのです。自治会を中心として、地区社協など様々な団体が連携しながら、公共を担っています。そういう特徴を生かし、また発展させる「まちづくり基本条例」を検討すべき時期でもあると思います。

高岡委員

小学校と幼稚園も併設されている、また、商工会議所でも関連団体が同じ建物に集まっているなど、横とのつながりが大垣の特徴だと思います。

山岡委員

鈴木委員長がおっしゃるとおり、大垣は全国でも珍しいほど自治会活動やコミュニティづくりが長年の積み重ねで出来上がっています。ただ、自治会側は市民活動をあまり知らないのが現状なので、今後は連携しながら、ネットワークを組む必要があると思います。

鈴木委員長

次回の委員会はいつ頃の開催予定ですか。

田中事務局担当

4月には助成の報告会と審査会がありますので、その後になります。一度、スケジュールを組んで委員長さんと相談したいと思います。

鈴木委員長

今回は5月末頃の開催予定となると思いますので、皆さんよろしくお願ひします。

その他、ご意見やご質問はよろしいでしょうか。

以上で、平成19年度第4回大垣市まちづくり市民活動育成支援推進委員会を閉会い

たします。

午後4時15分 閉会

以上、会議の次第を記載し、その相違のないことを証するため、ここに署名する。

委員長 鈴木 誠

委員 高岡 ミネ